

拝啓 今年も早や3月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、真っ白で優雅な木蓮が咲いております。犬はいなくなりましたが、毎朝同じ時間に散歩をしております。

今回は、内村鑑三先生の『統一日一生』からの引用の最終回です。

12月8日のところに次のようにあります。

「もし人がこれだけを信じますれば、彼が天主教であろうが、あるいはバプチストであろうが、メソジストであろうが、「長老」であろうが、ギリシャ教徒であろうが、「監督」であろうが、われらは深くとがむるに及ばないと思います。…彼は宗派の人たるをやめて、すなわち真正のカトリック（「広量」の意）信者となるであろうと思います」という所に同感します。内村先生の信仰は、パウロのキリスト教であり、原始キリスト教に近いと思います。従ってすべての宗派の人に伝えられるべきキリスト教のように思います。聖霊を非常に強調されます。内村先生から深く学ばれた小西先生は、内村先生からその信仰を受け継がれました。

来月からは新渡戸稲造先生の「人生雑感」から引用いたします。新渡戸稲造先生の宗教観が書かれている本です。

3月5日の日曜日の午後、井上洋治神父帰天3周年野の花命日祭という会に出席し、カトリックの井上洋治神父（1927-2014）の信仰を少し学んできました。小西先生が、「わが主イエスよ」呼ぶ称名の信仰を説かれたように井上神父は「南無アッバ」と呼ぶ信仰を勧められております。井上神父も法然の信仰から、学ばれたようです。また、映画「沈黙」であらわされたように、神道・仏教的な信仰におおわれていてキリスト教にとっては泥沼のような日本の国で、キリスト教を広めるためには、「南無アッバ」と呼ぶ信仰がよいと着眼されたのではないかと思います。小西先生も万人が救われるキリスト教として、「わが主イエスよ」と呼ぶことが日本では良いと思いつかれたのだと思います。井上洋治神父の信仰と小西先生の恵心流キリスト教徒と共通の信仰を感じました。

3月19日の日曜日午後、早稲田教会で開かれた「アメリカキリスト教史」の読書界に飛び入りで参加し、ジェファーソンやフランクリンの信仰について聞き、興味深く感じました。

もうすぐ温かい春が目の前まで来ています。季節の変わり目に当たりますので、皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

山口周三

平成29年3月22日

エンカウターの読者各位